

緑化だより

No.190 令和5年1・2月合併号



- 季節の花(セリ(芹))
- 水生昆虫の話
(フタスジモンカゲロウ)
- 小さな世界こけ(ヒメジャゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

セリ(芹)

あかねさす 昼は田賜(たた)びて ぬばたまの

夜のいとまに 摘(つ)める芹これ

橘諸兄(葛城王)(たちばなのもろえ) 万葉集 20 巻 4455

これを訳しますと

(赤く照り映える昼間は田を配分する仕事で忙しい 任務をこなし、

夜になってから公務の合間に、ようやく摘んだ芹ですよ。どうぞ)

729 年、葛城王(かつらぎのおおきみ)、後の橘諸兄(たちばなのもろえ)は山背国(やましろのくに)、現在の京都府南部の公民に田畑を与えて租税を徴収する多忙な仕事(班田使)に任命されていましたが、忙しいながらも暇を見つけて芹を摘んで、好きな女官に歌とともに送ったのです。

セリはセリ科セリ属、日本原産ですが、朝鮮半島、中国大陸、台湾から東南アジア、オーストラリアまで広く分布しています。

水田や溝、小川に生える湿地性の多年草で、地下茎を伸ばし、秋に節から新芽を出し増えて群生します。密生している様子が「競り合っている」ように見えることから「セリ、競り」と名づけられたと言われています。別名は「シロネグサ、白根草」。

花期は7~8月で、白い小さな5弁の花を咲かせます。

セリは春の七草(セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ)のひとつで、冬の間ロゼット状態から伸びてきた新芽を摘んで食用にされます。

春の七草と言えば七草粥ですが、平安時代の七種(七草)がゆは、米、粟(あわ)、黍(きび)、稗(ひえ)、みの、小豆、胡麻など七種の穀類と水田の野草の実で炊き、無病息災を願い、正月 15 日(小正月)に食べていました。これは今でも小豆粥として継承されています。現在の正月 7 日の朝に食べる七草粥は鎌倉時代になってからです。

セリは奈良時代にはすでに食用とされ、平安時代には栽培されていました。2~4 月頃に全草(白い根)を摘み取り、食用となります。香りがよく、シャキシャキした歯触りで、おひたし、油いため、汁の実など、とても美味です。

よく似た、キツネノボタン、ドクゼリなど香りの無いものは毒草です。(上村)



セリ

水生昆虫の話

フタスジモンカゲロウ

新しい年の始まりには、水生昆虫の中でも私が特に大好きなフタスジモンカゲロウをご紹介します。と思います。

国内のモンカゲロウ属は、沖縄諸島に生息しているタイワンモンカゲロウと、モンカゲロウ、フタスジモンカゲロウ、トウヨウモンカゲロウの全4種ですが、北海道~九州までは、モンカゲロウ、フタスジモンカゲロウ、トウヨウモンカゲロウの3種が生息しています。

面白いことに、この3種は明確ではありませんが、何となく比較的水のきれいな上流から中流域にフタスジモンカゲロウ、中流域にモンカゲロウ、下流に近いところにトウヨウモンカゲロウ、と何とな

く棲み分けがなされており、同じモンカゲロウであっても、その生活史が若干異なる場所もまた魅力のひとつです。

いずれも、流れの速い場所あまり好まないで、比較的流れがゆるやかな平らな瀬や渚のような場所で、砂に穴を掘って穴の中でふさふさしたエアをフワフワと波打つように動かして水の流れを作ること、流れてきた有機物を引きよせて食べています。6月から10月にかけて羽化します。

このカゲロウの幼虫が、写真のとおり何とも言えないしなやかなスタイルで、まるで王様のような気品ある顔立ち。エアの動きが、まるで豪華なファーを身にまとったようなフワフワふにゃふにゃとしたしなやかな感じで、まるで舞台の上の主人公のような個性的な姿に魅了されます。あまりにも繊細で柔らかいので、採集してトレイの中に他の水生昆虫と一緒に入ると、目を離した隙に食べられてしまうこともあり、「あああ〜！モンちゃんが！！」と、とてもショックを受けることもあります。

成虫になると、淡いレモン色のような色合いの、見た感じがとても柔らかそうなカゲロウで、夏になるとコンビニや自動販売機のガラス面にとまっている姿や、川沿いの草むらなかでも、じっととまっている姿をよく見かけます。

幼虫も成虫も、何となく気品があつて柔らかそうな感じのカゲロウで、そこが他のカゲロウとは違うこの種ならではの魅力だと思います。本当に可愛いので、おすすめのカゲロウです。(西村)



フタスジモンカゲロウの幼虫

小さな世界 こけ

ヒメジャゴケ

ヒメジャゴケは、第二、第四駐車場、湿地植物園、東山作業路などの湿った土手などで見られますが、湿っている場所なら日光が当たる場所でも普通に見られるコケです。

タイ類、葉状体の雌雄異株で、ジャゴケの幅が 1.5 cmあるのに比べ、幅 3~4 mmと小型ですが、葉の表面はジャゴケと同じくへびのうろこに似た六角形の区画があります。

8月頃、雄株の葉の先に楕円形の雄器托をつけ、10月頃から雄株、雌株とも葉先に無性芽をつけ始めます。又同時期に雌株は雌器托をつくり始めます。

晩秋には黄緑色の葉状体は赤銅色に紅葉し、冬になると株は枯れますが、雌器托のまわりは枯れずに冬を越し、春になると雌器托の柄は3~4 cm伸び、胞子のうをつけます。(山根)



ヒメジャゴケ



ヒメジャゴケの雄器托



ヒメジャゴケの雌器托(3月)



無性芽(葉先)

雌器托初期

研修会のご案内

- | | |
|---|--|
| <p>○ 1月22日(日)『なめこ植菌教室』
栽培についての講義のあと、植菌実習
※要予約(残りわずか)、材料費700円</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長 影井 和男</p> |
| <p>○ 1月29日(日)『フグジュソウを育てよう』
栽培についての講義のあと、鉢植えの実習
※要予約(先着15組)、材料費1,200円(予約受付中)</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
長井 稔</p> |
| <p>○ 2月22日(水)『ジャンボ椎茸植菌教室No.1』
栽培についての講義のあと、植菌実習
※要予約(先着30組)、材料費800円(1/4～予約開始)
第1回、第2回の両方に参加することはできません</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長 影井 和男</p> |
| <p>○ 2月25日(土)『ジャンボ椎茸植菌教室No.2』
栽培についての講義のあと、植菌実習
※要予約(先着30組)、材料費800円(1/4～予約開始)
第1回、第2回の両方に参加することはできません</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長 影井 和男</p> |
| <p>○ 3月1日(水)『針葉樹の見分け方』
室内で実物の葉っぱを見て、特徴や見分け方を学ぶ
※自由参加・無料、ルーペ持参</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林植物研究家
埴田 宏</p> |

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆ お知らせ・ご案内 ☆

- ・合格祈願「やまこうばし」のお守り
管理事務所にて1人1枚、無料

◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

モーモーアート クレイ作品展

～2月21日(火)

(ボード展示)

第6回ひろしま遊学の森

「四季の移ろい」写真コンテスト作品展

～1月22日(日)

令和4年度広島県緑化ポスター

原画コンクール入賞作品展 2月1日(水)～2月28日(火)



合格祈願「やまこうばし」のお守り



モーモーアート「クレイ作品展」より